

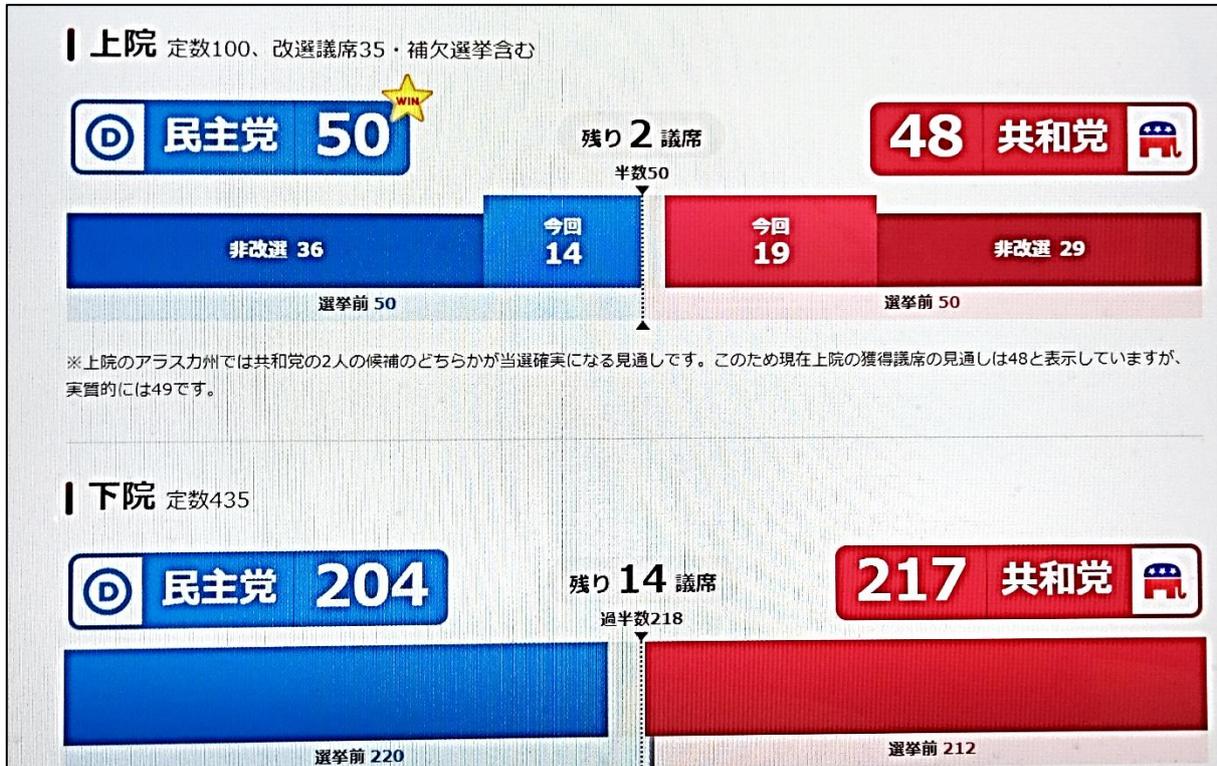
11月16日のウクライナ情報

安齋育郎

●アメリカ中間選挙(2022年11月15日現在)

アメリカ中間選挙の開票状況をお伝えしています。議席獲得の状況のほか、中間選挙の基本情報などをまとめたサイトです。

https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/us-election/?s=09



●病気のはずだが、元気なラブロフ外相(2022年11月15日)

—すみません、セルゲイ・ヴィクトロヴィッチ・ラブロフ、ここ(イギリス)の新聞にあなたが入院したって書いてあるのですが。

(ラブロフ外相)うちの大統領が病気だ病気だと、10年間、ずっと書いてるからね。そんなお遊びは政治の世界では目新しくもないよ。

https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1592178884921151489?t=Ss4k7e-lEhc1LEyrm7wg&s=09



●イスタンブールのテロ事件へのプーチンの哀悼の意(2022年11月15日)

プーチン大統領は、イスタンブールでのテロ事件に関連して、エルドアン大統領に哀悼の意を表した。大統領はトルコの指導者に電報で、テロとの戦いに協力する用意があることをあらためて表明した。
<https://twitter.com/xHPV8jm1AdPpJDC/status/1592189589292474368?t=nh8XaliI7JXSqMm-PBiKw&s=09>



●ゼレンスキーにはウクライナを惨事に導いたまま踏み止まることは負けることを意味する(2022年11月15日)

ウクライナはドイツ国防軍の例に倣い、陣地保持の戦略に固執することを決めたと TAC は書いている。ヒトラーの戦術は失敗であったことが証明された。しかし、ゼレンスキーは撤退ではなく反撃を命じ続け、国を破滅に近づけていく。

ダグラス・マクレガー

1942 年末、ドイツ国防軍が壁に突き当たり、これ以上東に進めなくなると、ヒトラーは戦術を変え、地上軍を敵に対する行動から、地上の保持に切り替えた。

ヒトラーは、広大なソ連の領土を防衛することを要求したが、そのほとんどは空っぽで、戦略的重要性もなかった。

ドイツ軍は陣地保持のため、遅々として進まないソ連の敵を出し抜く作戦能力を失っていなかったが、兵站も限界に達していた。ドイツ国防軍は、陣地保持と無駄な領土を取り戻すための果てしない反撃を組み合わせることで、自らをゆっくりとした苦渋に満ちた破壊へと追いやったのだ。

ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領も、米英のアドバイザーからの助言もあって、東部での保持戦略を採用したようだ。

ウクライナ軍は、市街地での防衛を準備することで固定化した。その結果、都市の中心部は要塞化され、「最後の砦」と化した。マリウポリのような都市からの賢明な撤退は、ウクライナ軍の最高の部隊を救うことができたのに、検討さえされなかった。

これに対し、ロシア軍は計画的に守備隊を孤立させ、粉碎し、逃走経路と援軍の到着を断ち切った。

ウクライナ軍を最小限の損失で撃破するというモスクワの決意が実を結んだ。ロシア軍が東部に進出して以来、ウクライナは常に報告されているよりも重い損失を被ってきたが、今回のケルソン地方での反撃の失敗により、その損失は恐るべきレベルまで上昇し、もはや隠すことができなくなっ

った。ウクライナは毎月 2 万人の死傷者を出している。

126 榴弾砲、80 万発の砲弾、HIMARS の到着にもかかわらず、数カ月にもわたる激しい戦闘でウクライナの地上部隊の戦力は揺らいでいる。そんな中、ゼレンスキーは領土を取り戻し、ウクライナの対ロシア戦略上、絶望的な状況ではないことを示すために反撃の指示を出し続けている。

ドンバスとハリコフを結ぶイジウムでの AFU による最近の攻勢は、キーウへの贈り物のように見えるかもしれない。イジウム西方のロシア軍は軽装備の兵士(内勤部隊、特殊部隊、空挺部隊)2,000 人弱であることが判明したのだ。

これを受けて、ロシア軍司令部は、ウクライナ支配地域の約 1%から少人数の部隊を撤退させることを決定した。しかし、キーウはそのプロパガンダの勝利のために高い代償を払った。様々な報告によると、ロシアの大砲、ミサイル、空爆が殺戮の場と化した平原での犠牲者は、5 千から 1 万の兵士の死傷に及んだとされている。

ワシントンはロシアの兵器を倒してウクライナの戦闘を止める力がないのだから、ウクライナ国家の廃墟をロシアの脇腹の傷口にしようとするのは明らかであろう。

しかし、このアプローチの弱点は、当初からロシアが極めて厳しい条件での突然のエスカレーションで敵対関係を終わらせるだけの十分な資源を持っていることであった。まさに今、私たちはそれを目の当たりにしている。

そのため、プーチン大統領が 30 万人の予備役の部分動員を発表したのも当然といえば当然である。その多くは、ロシアの他の地区でロシア軍の正規部隊と交代し、ウクライナでの作戦に解放されることになる。また、ウクライナ東部のロシア軍部隊に合流する者もいる。

プーチンが交渉のテーブルにつき、ウクライナでの作戦の範囲と破壊力を制限しようとする姿勢は、常にワシントンに弱さと誤解されてきた。

しかし、プーチンの目標は常にウクライナ東部の NATO の脅威を排除することに限られていたことは、当初から明らかであった。この紛争に乗じて、ドイツに F-35 戦闘機を、中東欧の連合国政府に大量のミサイルやレーダーなどの装備を売り込もうとしたワシントンの意図は、今や逆効果になっている。

アメリカの将軍は、長い間(そして失敗したわけでもないが)、無意味な決まり文句で有権者をなだめてきた。ウクライナ東部の状況はモスクワにとってますます有利になり、世界におけるロシアの地位も強化されている。

ワシントンは、ウクライナにおけるロシアの力の弱体化に「成功」と宣言して行動を巻き戻すか、ヨーロッパ全体を巻き込む地域戦争のリスクを冒すかという厳しい選択を迫られているのである。

しかし、ヨーロッパでは、ワシントンとモスクワの戦争は、単なる痛ましい話題ではない。ドイツ経済は崩壊の危機に瀕している。ドイツの産業界や家庭はエネルギーを必要としているが、そのエネルギーは毎週高くなる一方だ。

ドイツの経済的な混乱は、しばしば米国でも厳しい状況に陥る前兆であることが歴史的に知られている。

さらに重要なことは、ヨーロッパ諸国、特にフランスとドイツにおける社会的結束が疑問視されていることだ。ベルリン警察は、「多文化」の首都の電力網が崩壊した場合、冬季の暴動や略奪に対処するための緊急計画を策定しているとさえ伝えられている。

不満が高まり、ドイツ、フランス、イギリスの政府は、ストックホルムやローマに続いて中道右派連合に政権を明け渡す可能性がある。

しかし、キーウはロシアの防衛に最後の力を振り絞り、モスクワの思うつぼにはまり続けている。

バイデン大統領は、「必要な限り」ウクライナを支援すると断言している。しかし、もしワシントンが戦略的石油備蓄を枯渇させ、ウクライナに兵器を送り続けるなら、キーウの支援はすぐにアメリカ自身の防衛に匹敵し始めるだろう。

ウクライナの GDP の 95%を生産する領土を、すでにロシアが支配している。

これ以上、西に移動する必要はないのだ。この記事を書いている時点で、ドンバスでの作戦が終われば、モスクワが 2014 年にウクライナ軍の手によって恐ろしい残虐行為を目撃したロシアの都市、オデッサに目を向けることは明らかだ。

モスクワは急がない。

ロシア人は整然と行動し、一步一步を考えている。ウクライナ軍(AFU)は反撃に次ぐ反撃で出血している。なぜ急ぐのか？

モスクワは待ち方を知っている。中国、サウジアラビア、インドがロシアの石油をルーブルで買っている。この制裁は、ロシアではなく、アメリカのヨーロッパの同盟国を傷つけているのだ。

これからの冬は、モスクワのどんな行動よりも、確実にヨーロッパの政治情勢を変えていくだろう。一方、ポーランドの最南端にある人口 2 万 7 千人の都市ザコパネでは、すでに雪が降っている。

ダグラス・マクレガーは、退役大佐、アメリカ保守党のシニアフェロー、トランプ政権の元国防長官顧問、受賞歴のある戦闘経験者、5 冊の著書の著者である。



●アメリカの敵になることは危険かもしれないが、友人になることは致命的である(キッシンジャー、2022年10月7日)

ノルドストリーム・パイプライン爆破のついでにダグラス・マクレガー米陸軍大佐(国防長官顧問)のコメント:このパイプラインは金属合金の周りに数インチのコンクリートが覆われていて、非常に頑丈。大量の TNT が使用された。それが可能なのは米海軍と英海軍だけ。

<http://c3plamo.blog.fc2.com/blog-entry-5891.html>

●マイケル・ジョーンズは、もし誰かが核兵器を爆発させたら、それはロシアではなくアメリカだろうと言う(2022年10月13日)

ダグラス・マクレガー大佐は昨日、あるプラットフォームで、ロシアが核兵器の使用を計画しているという証拠は全くないと言っていた。彼らはその必要がないのです。彼らは秋の攻撃に向けて準備を進めており、現時点では圧倒的な軍事的優位性を持っています。つまり、私たちがここで本当に話しているのは、アメリカが核爆弾を爆発させ、それをロシアのせいにする事だだと思います。パイプラインの

件もそうですが、核兵器の件もそうです。

バイデンと主流メディアは先制的にプーチンを非難している。彼らは、ロシアが負け、絶望的になり、核攻撃に訴える可能性が高いと言います。必死になっているのは、ロシア人ではなく、ウクライナ人と、アメリカのネオコン支援者だ。どれほど必死ですか？ええと、ゼリンスキーは米国が先制的にロシアを核攻撃することを望んでいます、それはどれほど絶望的です。

<https://kevinbarrett.substack.com/p/beware-of-nuclear-false-flag-blaming>



●米軍大佐ダグラス・マクレガー、米国と NATO がロシアに勝てない理由を説明(2022年11月6日)

米国防総省長官の元顧問であるダグラス・マクレガー大佐は、ウクライナ情勢に介入した米国と北大西洋条約機構(NATO)が、明らかにロシアの軍事力を過小評価していたと指摘している。米メディア「アメリカン・コンサバティブ」が報じている。

マクレガー氏によると、米政権はウクライナ紛争で勝利を収めるために NATO 軍を利用することを真剣に検討しているという。しかし同氏は、NATO 軍がロシアに勝利できるとはみていない。マクレガー氏は、ロシア軍兵士は自分たちが何のために戦っているのか、つまり国の存立がかかっていることを理解しているが、米国の将軍は NATO 加盟国から同様な忠誠心を期待することはできないと指摘している。また米国は、ウクライナでの軍事作戦が示しているように、ロシアの軍事力を過小評価していた。

またマクレガー氏によると、米国とその同盟国がイラクとアフガニスタンで失敗を経験したことで、米国社会では敬遠ムードが広まっている。ウクライナで NATO 軍が失敗を経験することになれば、米国は高い代償を払うことになるという。

●米国メディア、ウクライナへの米軍配備に懸念(2022年11月3日)

西側諸国から供給された兵器の点検を行うために米軍をウクライナに派遣することは、ロシアと北大西洋条約機構(NATO)の全面的な衝突にエスカレートする恐れがある。米国の軍事専門メディア「19FortyFive」のコラムニストであるジャック・バックビー氏が、このように指摘している。

米国が立てた計画によると、ウクライナ政府が最先端の通常兵器をモニタリングし、その所在を確認する作業を米軍が支援するという。

バックビー氏は、ロシアの攻撃で米軍兵士が亡くなった場合、NATO への攻撃とみなされる可能性があると言っている。

バックビー氏は、米国当局は「このような事態の変化」に備えて、あらかじめ計画を検討していたとみている。

米国は、ウクライナでの戦闘行為に米軍兵士は参加しないと繰り返し強調している。

これよりも前、米国のコラムニストでイラク戦争退役軍人のダン・コールドウェル氏は、西側諸国はウクライナにおけるロシアの特殊作戦を阻止できる機会があったと発言した。

●世界は、米国がウクライナ紛争を挑発したと確信している＝露ラブロフ外相(2022年11月15日)

G20での米国の発言にもかかわらず、他の国々はウクライナ紛争が米国政府によって引き起こされたとますます確信するようになっている。ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相が15日、このような考えを示した。

ラブロフ氏は、インドネシアのバリ島で開催中のG20サミットでフランスのマクロン大統領とドイツのショルツ首相と短時間の会談を行い、その会談でラブロフ氏はウクライナがロシアとの交渉プロセスを頓挫させていると述べたという。

さらにラブロフ氏は、米国がウクライナに関する協議を準備しているとの報道は噂レベルのものであるとの考えを示した。同氏は、「アメリカ側が何らかの交渉を準備しているとされる報道については、このような噂が次々と出てきて消えていく。もはや反応しない」と述べた。

これよりも前、米務省はウクライナとロシアの和平交渉の可能性について密かに準備を進めているが、米政府ではこの件に関する統一した見解はないと報じられた。



●ラブロフ入院の噂に対する中国外相の見方(2022年11月15日)

中国の王毅外相は、同僚のラブロフ外相の入院の噂に対して、フェイクニュースの時代には個人的なコンタクトを維持することが必要だと述べた。



※安齋注:王毅さんはかつて駐日大使時代に立命館の国際平和ミュージアムを訪れ、私が案内しました。失礼なことに私は彼に「今日は通訳は？」と聞きましたが、彼は流ちょうな日本語で、「日本語しゃべれますよ」と答えました。